

土砂・洪水災害研究の今後

近年、地球温暖化による異常豪雨の発生や都市化にともない、災害は年々増加する傾向にあります。これらの現状を踏まえて、平成9年11月18、19日の両日、つくば市の研究交流センターにおいて、大学、産業界、国立試験研究機関等から延べ113名の参加を得て、土砂・洪水災害研究に関するワークショップを開催しました。

このワークショップでは、基調講演とこれまでの研究成果の発表を行うとともに、今後の土砂・洪水災害研究の進め方、特に大型降雨実験施設の活用のあり方について、参加者全員で活発な議論を行いました。

土砂災害の危険度評価手法の確立、都市化によって変化した洪水災害研究の取り組みの必要性、世界に類を見ない大型降雨実験施設を活用した共同研究の活性化や、受託研究の妨げとなっ



大型降雨実験施設

ている施設利用料などに関する意見がありました。

これらの意見を参考にして、土砂・洪水災害の防止、軽減のための研究を、さらに推進していきます。

(問い合わせ先：気象防災研究室)



満員のワークショップ会場